

今月のことば

～保育のビタミン～

楽しい仕事は、ラクじゃない

佐々木 哲生
ささき てっしろう

保育の仕事は、小さな可愛い子どもたちと、歌をうたったり遊戯をしたり、絵本や紙芝居を読んであげたり…、外から見ると、とつても楽しそうに思えます。しかも、そんな楽しいことをしながら、給料までもらえてしまうのですから、連年「中高生の女の子が将来就きたい職業」の上位にランクインしているのも不思議ではありません。

でも、実は保育の仕事は、外から見るとラクではありませんよね。たとえ可愛くても、だからといって、みんな素直でおとなしい子どもばかりではありませんし、いつもこちらの思ったように言うことを聞いてくれるわけでもありません。時には思いもよらないことをして、大あわてさせられることもあったりします。

その上、子どもたちの日々の保育だけでは

なく、室内の掃除をしたり、連絡帳や日誌を書いたり、保育計画の立案もしなければなりませんし、教材などの準備もけっこう大変です。もちろん、ピアノを弾いたり、絵を描いたり、歌ったり、制作をしたり…、遊戯を教える際は子どもたちと左右反対の振り付けを覚えておかなければなりません。

これらに加えて、最近はずいぶん「ただけではなく、保護者の方からの「苦情・相談」に対して、細心の配慮をすることも求められています。本当に、園での一日は気の休まらないことばかりです。

でも、決して外から見ると「ラク」ではない仕事ではあっても、あなたが保育を「楽しい！」と言えるのは、やっぱり「保育」という仕事に、そして何よりも子どもたちが「大好きだから！」ですよね！